

- 問1 使わなくなった服を、ごみとして捨てるのではなく、必要としている人に譲るような、形を変えずに繰り返し使う取り組みのことを何と言いますか。
- 問2 ごみを捨てるときに、スチール缶やペットボトルなどを種類ごとに分けて出す「分別（ぶんべつ）」をするのはなぜですか。
- 問3 石油や石炭、天然ガスなどの化石燃料をもやして電気をつくる方法を何と言いますか。
- 問4 私たちがごみを減らすために、まず「リデュース（ごみそのものを減らす）」を意識することが大切なのはなぜですか。
- 問5 日本でいろいろな種類の発電方法が使い分けられているのは、なぜですか。
- 問6 リユースを進めることで、どのような良い効果がありますか。
- 問7 水の流れを利用して電気を作る方法を何と言いますか。
- 問8 清掃工場でごみを燃やす、一番の目的は何でしょうか。
- 問9 使い終わったものを、一度分解したり溶かしたりして「原料」に戻してから、新しい製品に作りかえることを何と言いますか。
- 問10 しゅう集車が家庭から集めたごみを、最終的に清掃工場へ運ぶのはなぜですか。
- 問11 日本で水力発電が昔からさかんに利用されてきた理由は、どのような自然環境があるからですか。
- 問12 原子力発電で、電気を作るための燃料として使われるものは何ですか。
- 問13 家庭から出されたごみや資源を回収して、清掃工場まで運ぶために使われる特別な車を何と言いますか。
- 問14 私たちが家庭で使う水は、川から直接流れてくるのではなく、必ず浄水場を通るようになっています。なぜ、わざわざ浄水場できれいにする必要がありますのでしょうか。
- 問15 清掃工場で、ごみを燃やしたときに出る熱は、どのように利用されていますか。
- 問16 発電所でつくられた電気を、家庭や工場に届けるために電圧（電気の勢い）を下げる役割をしている場所はどこでしょう。
- 問17 清掃工場でごみを燃やしたあとに残る「灰」は、最終的にどうなりますか。
- 問18 新聞や雑誌などの紙類を正しく分別して出すと、何に生まれ変わることが多いのでしょうか。
- 問19 ある町では、何年もかけて住む人の数（人口）がふえ続けています。このとき、町の水の使用量はどのようになっていると考えられますか。
- 問20 清掃工場でごみを燃やすとき、空気中に有害な物質が広がらないようにするために、どのような工夫をしていますか。

## 答え合わせ・解説 No.2

問1	<b>答え</b> リユース	一度使ったものを形を変えずに何度も繰り返し使うことを「リユース（再使用）」と言います。似た言葉に、一度ごみとして細かくして、別の製品の材料に変える「リサイクル（再生利用）」がありますが、形を変えずにそのまま使う点がリユースの特徴です。
問2	<b>答え</b> ごみを資源として再利用し、捨てるごみを減らせるから	資源となるごみを正しく分別すると、それらを再び新しい製品の材料（資源）にすることができます。これにより、ごみとして燃やされたり埋め立てられたりする量を減らすことができるため、環境を守るための重要な活動となります。
問3	<b>答え</b> 火力発電	石油、石炭、天然ガスといった燃料を燃やすことで発生する熱エネルギーを利用して電気をつくる仕組みを火力発電と呼びます。他の発電方法と区別する重要なポイントです。
問4	<b>答え</b> ごみそのものが出なければ、そのあとの処理の手間やエネルギーもいらなくなるから	ごみが出てからリサイクルするのにも、実は多くのエネルギーや手間がかかります。一番の解決策は、そもそもごみを出さないように工夫すること（リデュース）です。
問5	<b>答え</b> それぞれの発電方法で環境への影響やエネルギー源の使いやすさが違うから	火力発電や原子力発電、自然の力を利用する発電には、それぞれメリットとデメリットがあります。例えば、資源がなくなる心配や地球環境への影響などが異なるため、目的にあわせて組み合わせたり使い分けたりすることが大切です。
問6	<b>答え</b> ごみの量を減らし、資源を無駄にしない	物を大切にしながら繰り返し使うことで、本来ごみになるはずだったものを減らすことができます。これにより、新しい物を作るために使う資源の消費を抑え、限りある資源を効率よく使うことにつながります。
問7	<b>答え</b> 水力発電	高いところから低いところへ流れる水の力を使って、大きな機械（タービン）を回して電気を作る仕組みです。自然のエネルギーを利用した発電方法のひとつです。
問8	<b>答え</b> ごみの体積を小さくして、埋め立てる場所を長持ちさせるため	ごみをそのまま埋め立てると、すぐに埋め立てる場所がいっぱいになってしまいます。そのため、清掃工場でごみを燃やして体積を小さくし、埋め立て地の寿命を延ばすことが重要な役割の一つです。電気を作ることも行われていますが、それは燃やした時の熱を上手に活用する取り組みの一つです。
問9	<b>答え</b> リサイクル	一度バラバラにして原料の状態に戻すことがポイントです。そのままの形で繰り返し使う「リユース」と間違えないようにしましょう。
問10	<b>答え</b> ごみを適切に処理するため	私たちが日常生活で出すごみは、そのままにしておくとも町が汚れてしまいます。しゅう集車で清掃工場へ集めることで、ごみを燃やしたりリサイクルしたりと、適切に処理して町を衛生的に保つことができるからです。
問11	<b>答え</b> 山が多く、雨もよく降るため水が豊かだから	水力発電には、高い位置から勢いよく流れる水が必要です。日本は山地が多くて高低差があり、雨もよく降るため、この発電方法に適した自然環境が整っています。
問12	<b>答え</b> ウラン	原子力発電は、ウランという物質が核分裂するときに出る熱エネルギーを利用して電気を作ります。石炭、石油、天然ガスは火力発電の燃料です。
問13	<b>答え</b> しゅう集車	しゅう集車は、町のごみを効率よく集めて運ぶために作られた特別な車です。この車があることで、家庭から出たごみが素早く清掃工場へ運ばれ、町の中をきれいに保つことができます。
問14	<b>答え</b> 川の水には泥や目に見えない汚れがふくまれているから	川から取り入れた水には、土や砂、目には見えない小さな生き物などのよごれがふくまれています。そのままでは飲むことができないため、浄水場でこれらの汚れを取りのぞき、消毒をしてから私たちの家へ送っているのです。
問15	<b>答え</b> 電気を作ったり、温水プールを温めたりする	清掃工場でごみを燃やすときに出る熱（余熱）は、発電をして工場や地域の電気として使われたり、温水プールや近くの施設にお湯を送って温めたりするのに利用されています。
問16	<b>答え</b> 変電所	発電所では電気をつくりませんが、つくられた電気はそのままでは強すぎるため、変電所という場所で私たちが使いやすい電圧に下げた後、家庭や工場へ送られています。
問17	<b>答え</b> 最終処分場（埋め立て地）に運ばれる	ごみを燃やすと、燃え残った灰が発生します。この灰の一部はセメントの材料などにリサイクルされますが、リサイクルできない残りの多くは「最終処分場」と呼ばれる埋め立て地に運ばれて埋められます。
問18	<b>答え</b> トイレトペーパー	新聞や雑誌などの古紙は、回収された後に工場で溶かされ、再び紙製品としてリサイクルされます。その代表的な例が、私たちが毎日使うトイレトペーパーです。このように資源を循環させることは、ごみを減らすためにとても大切なことです。

---

<b>問19</b>	<b>答え</b> 節水の工夫などにより、水の使用量は減ったり、横ばいになったりすることがある	人口がふえると水の使用量も自動的に増えると思われがちですが、実際にはそうとは限りません。人々が毎日の生活の中で節水を心がけたり、工場などで水を再利用したりする工夫が進んでいるため、人口が増えても全体としての水の使用量は減ったり、横ばいになったりすることがあります。資源である水を大切にする社会の意識が高まっている証拠です。
<b>問20</b>	<b>答え</b> はいガス処理装置で有害な物質を取り除いている	ごみを燃やすと煙やガスが発生しますが、そのまま外に出すと環境によくありません。そのため、清掃工場には「はいガス処理装置」があり、有害な物質をしっかりと取り除いてから、きれいな空気にして外へ出しています。

---